

# 学生新聞

放送大学  
埼玉学習センター  
埼玉CSC交流会  
学生新聞  
編集委員会  
〒330-0853  
さいたま市大宮区  
錦町682-2  
TEL048-650-2611

## 第4回 一般公開講演会 「がん哲学」教育・対話学の確立」 易しい言葉で説かれたがん哲学を聴く

一般公開講演会第4回は「がん哲学」教育・対話学の確立」として、順天堂大学 名誉教授 樋野興夫先生を迎えて、年末の12月22日(日)に催された。

樋野先生は順天堂大学の病理学教授として、長年腫瘍病理学の研究・教育・診療に携わって来られた。今や日本人の2人に1人はがんに罹る時代になった。時によってがんは、死に直結する病気となることから「がん」と共生する時代」になったのだ。一方で樋野先生は、がんになった患者さんやその家族および介護

## 「年度の終わりに際して」

埼玉学習センター所長 堀尾健一郎

早いもので小生が埼玉学習センターに着任して10か月が過ぎました。実にいろいろなことを体験させていただいておりますが、学習センター最大の任務である単位認定試験は想像を超える出来事でした。閉講再試験科目があるため実施科目数が多い第1学期の実績で言いますと、埼玉学習センターでは修士課程、学部合わせて7386名の受験者に392科目の試験を行いました。1日8時限のうち多いときには同時に9科目という時間帯もありました。学生の皆様にとって大変大事な単位認定試験を、全国一斉、同時時間帯に同一複数科目で実施し、かつ滞りなく行うという使命に対して、その役割を淡々と完璧にこなす学習センター職員の方々の仕事ぶりと手腕に感銘を受けました。緊張感に満ちた10時間以上の任務を、途中2日の休日を挟んで10日間も続くということの大変さも実感しました。

第2学期の試験では、1月28日に積雪で交通機関に影響が出るかもしれないことへの対応を、前日が閉所日であったため前々日に考える必要がありました。天気予報も安全を見ようとしたのか、「雨になると思うが寒気のわずかな位置の違いで積雪になるかもしれない」という非常に困る予報がずっと続きました。学生の皆さんが来られるかどうかと併せて、職員や監督者をお願いしている方々が来場可能なのか、大宮はいろいろな交通機関があるので、ある交通機関が不通の場合にどのようなのか、などと考慮することが多数ありました。「来所された方には、予定時限でなくても試験を受けていただく。」という方針で臨むことを確認しました。総務係の方で職員、監督者の路線別分布を調べていただき、特定の路線に偏っていないので、学生の方が来たのに職員・監督者が居ないという事態は避けられそうだということは事前に予測できました。以前勤務していた大学では、交通事情などである程度人数が来られなくなれば、とりえず試験全体の日程変更で対処するという単純な対応が普通でした。放送大学では日時を変更すれば受験できなくなる学生がおられる可能性があるために、きめ細やかな対応が必要になるということも学びました。

前回の学生新聞でも申し上げました通り、今年7月の単位認定試験はオリンピックのお陰で修士と学部の試験を同一日程で行い、全体として6日で終了する予定になっています。台風だけは来ないように、と今から祈っています。

「がん哲学外来・カフェin御茶ノ水」を開設して患者さんとその家族の個人面談の場をつくった。その後、この趣旨に賛同する全国の人間により、各地で「がん哲学カフェin〇〇」が開設され、全国にひろがっている。



講演会当日は、満席の参加者が熱心に先生の話を聴くとともに、多くの人が自身や身の介護体験とそれに伴う悩みを語り、先生の助言を求めた。先生の話しは易しい言葉ではあるが、その意味には哲学的な深いものがあり、にわかには理解できず、更に質問する人も多くいた。それに対する先生の答えも、またユーモアに富んだ禅問答のようなやりとりで笑いが広がった。先生からは講演での話以外にも、多くの真に心に響く金言―「言葉の処方箋」をいただいた。それらを紹介する。

- ・「病気であっても病人でない！」
- ・「がんであっても、人間としての役割意識と使命感を失わずに生きる人は病人ではない」
- ・「病気であっても、自分の特技を生かしたり、家族に対する役割分担できる部分がある」

・家族や社会に対する役割意識を自覚すると、心の尊厳や人間性を取り戻すことができる

- ・希望をもって生きる人は病人ではない
- ・心配するのは一日1時間でもいい、のこりの時間は自分の役割を楽しみながら果たせ
- ・病気の悩みは解決できなくても解消はできる
- ・死を突き詰めて考えるより、むしろ余命を大切ににして、その時間を大切に生きなさい
- ・死なない人はいない。余命はいまい、未確定なものである
- ・八方ふさがりであっても天は開いている
- ・人生に期待するより、人生に期待されている自分に気づくこと

## 学びの場を求め放送大学へ ② 埼玉学習センター 宇都宮 明

私は自宅に近い埼玉学習センターに所属しているが、同センターはJR大宮駅から徒歩5分ほどの近距離で通学には至便である。学士資格の取得は、大宮が規定する124科目を履修する必要があり、各科目毎に単位認定試験前には予備試験としての通信指導試験を受け、面接授業後のレポート提出の他、単位認定試験はなかなかの難関で、それだけに醍醐味もある。50分の試験時間中、教室内は異様な静まり、張り詰めた空気が漂う。受験生は真剣な面持ちで試験問題と格闘する。しかし時間は受験生の気持ちとは一切関係なく刻々と経過し、異様な雰囲気の中に、試験は終了する。前述のように私は現在、全科履修生として学習し、今回は3度目の学士号取得を目指して学習中である。令和2年度(2019)第1学期の単位認定試験に臨んだ。しかし、3科目を受験したが、2科目が不合格となり、大変にショックを受けた。その事実のもとより、私

生来の愚鈍ないし不勉強に起因するが、その一方、この試験が生半可な学習ではなかなか単位は取れない事示す一事例であるかもしれない。

人間にとって、学ばばかりでは肩が凝るし、頭は痛くなる。私の属する埼玉学習センターでは、学生が互いに研究会や勉強会、及びスポーツ活動を行うためにサークル学生団体を設立し、学生相互の親睦を図っている。例えば、美術鑑賞、音楽鑑賞、ハイキング、研修旅行など、主に学外の活動や学内におけるクラブ活動、例えばパソコンサークル、ソーシャルダンスなど14のクラブ活動的の学生団体が設立され、会員はすこぶる和気あいあいとして楽しみながら研鑽に努め、成果を挙げている。

特記すべきは、年1回の学園祭がある事だ。学園祭では、各サークルの練習成果の発表や各種展示の他、様々な楽器演奏など学生たちが自慢の腕を披露し、吹奏楽団によるにぎやかなジャズ演奏なども行われる。学習センターは終日、活況を呈し、学生たちが互いの交流を楽しむのである。

先生の言葉は一見易しいが、じっくり考えると、人の心の奥深いスピリチュアルな場所に訴えかけるものであり、大きな感銘を受けた。(智義)

2020年度第1学期 学生募集  
2020年度4月入学

先生を募集しています。出生の受付は、第1回が2月29日(土)、第2回が3月17日(火)までです。皆さんの周りに放送大学に興味・関心のある方がおいででしたら、是非ご紹介ください。紹介された方が入学(再入学を除く)された場合には、薄

2019年度 学位記授与式等中止について  
3月21日(土)に開催を予定していた学位記授与式及び卒業・修了祝賀パーティは、新型コロナウイルスの感染が拡大し、謝を呈呈いたします。

している状況を受け、中止することといたしました。学位記の送付方法を含め、詳細につきましては、放送大学ホームページのお知らせ欄から「放送大学学位記授与式及び卒業・修了祝賀パーティの中止について」をご覧ください。

## 「ダンス、ダンス、ダンス」

埼玉CSC交流会代表 大島祥市

私は現在放送大学3つのダンスサークルに所属しています。ソシアル、研究会、そして文京サークル。どれも熱心で素敵なサークルです。経験年数は逆に文京が丸3年、研究会は昨年1月から。思いがけず昨年4月にCSC代表となり、6月から1度フリーの練習日を設けています。6月には思いがけず土曜日午前の地域活動役員か

ら解放され7月からソシアルに入れて頂いています。まさにダンス、ダンス、ダンスです。昨年秋季のセンター広報誌「さきたま」には思いがけずフェスタで踊った写真を掲載して頂きました。10月発行の「学生新聞」書評欄が面白い。モリエールの「町人貴族」、貴族を夢見る町人に対し貴族が身につけるべき教養談義の中、「音楽とダンス

さえあれば他に何もいりません」と語られます。さて新しい年、令和2年は新年早々のアメリカ軍によるイラン司令官殺害のニュース、イランによる民間機誤爆、日本はすでにタンカーの安全と調査のため自衛隊を派遣しています。今は小康状態となっておりますがこの文が載る新開発行は2月21日、「こんな時に何がダンスか!」とお叱りを受ける状況になつていなければ良いのですが――。本文は続

「町人貴族」本文は続

## 学生手帳

「若いへの挑戦」 笹原誠二  
いつも自分で決めたことや、最後が大切だと思つていいます。人に頼りなりの努力して、曲がりなりにも何とかできるようになりたいと考えています。

しかし、77歳を過ぎた頃から、足腰の衰えを感じることが多くなってきました。時々、足下がふらついて、思わず手近にあるものに掴まってしまいます。

先日、東武線大宮駅で、突然足下がふらついて、立ちくらみとめまいで目の前が真っ暗になり、回復するまで駅長室で休ませてもらいました。

自分では、思うように動けなくなると、他人の世話になりたくなくて、外出するのが億劫になります。ますます老化が進んでしまふように思います。それで時々、夕方になると、家の周りを散歩する事にしています。本当は、手ぶらでスイスイと歩きたいのですが、腰の痛みに耐えながら歩くのも大変なので、心ならずもステッキ代わりのこうもり傘を手にして出かけています。そのせいか、一時的には腰の痛みが軽減したように感じます。

「老人と海」は、84日間、魚一匹釣れない老漁夫が、やっと出会った大きなカジキマグロと4日間格闘して、これを仕留めまうが、港へ帰る途中で大部を鮫に食われてしまふという物語です。しかし、老人は自分の老いを感じながらも、必死に大魚と闘い、漁師としての人生を思い起こし、仕事への誇りを取り戻します。

私も自分の生きがいを探しながら、少しでも現在の意気を維持していきけるようにしたいと思っています。

